

学級名 3年1組 男子19名 女子21名 計40名

教科名 理科

単元名 単元5 地球と宇宙 (第3章 月と惑星の見え方)

本時の目標

- 月の公転と見え方について、モデル実験を通して、関連付けて捉えることができる。
- 月の1日の中での見え方の変化と、1ヶ月の中での見え方(同じ時刻)の変化の違いを、地球の自転と月の公転を関連付けて捉えることができる。

本時の評価規準

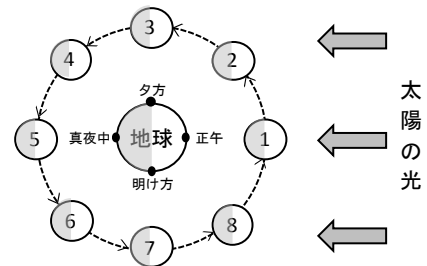
- 太陽、地球、月の位置関係についてモデル実験を行うことができる。
(実験・観察の技能)
- 太陽、地球、月の位置関係から月の形と位置の変化について考えることができる。
(科学的な思考・表現)

<本時の授業の流れ>

- 1 前時の学習内容の確認をする。
太陽、地球、月の位置関係による月の形の見え方について。
- 2 共有の課題を設定する。

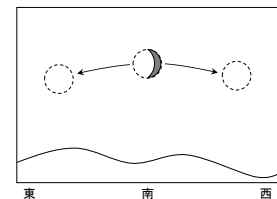
1日の中で、月が見える時間帯と方位はどのように変化するのだろうか。

- 3 グループごとにモデルを使い、月が見える時間帯と方位を探る。
- 4 全体で交流し、月が見える時間帯と方位を確認する。
- 5 ジャンプの課題を設定する。



(1)この月は、3時間後どちらに移動し、どのような形をしているだろうか。
(2)この月は、3日後(同じ時刻)どちらに移動し、どのような形をしているだろうか。

- 6 グループで考え、全体で交流する。
- 7 モデルを用い、1日の中での見え方の変化と、1ヶ月の中での見え方(同じ時刻)の変化の違いについてまとめる。また、その原因を明確にする。



<授業者より>

- グループごとにモデルを活用し、観測者の視点(位置)を移動させ、太陽、地球、月を俯瞰するような視点から考えさせることを大切にしたい。
- 4人グループで学びあうことで、考えを広めたり、理解を深めたりすることができるよう、生徒の思考の流れを大事にして授業を進めたい。

